

## 水辺の回廊整備・鴨川創造プランの取り組み内容

# 水辺の回廊整備・鴨川創造プランの内容

鴨川の安心・安全の向上と、鴨川の持つ「空間」「自然」「景観」などの資源を活かし、世界に誇れる新しい鴨川づくりを目指します。本プランでは、公共空間整備と治水対策の二つの重点施策を推進します。

## 「安心・安全の鴨川づくり」

- ・ハード・ソフト一体となった総合的治水対策を推進し、水害に強い地域社会の実現に向けた取り組みを推進

## 「千年の都 京都の美しい鴨川づくり」

- ・良好な水辺環境と沿川景観の保全・創出に努めるとともに、流域における健全な水循環の保全・再生の取り組みを推進

## 「より一層多くの人から親しまれる鴨川づくり」

- ・鴨川固有の魅力を社会全体で共有し、より多くの人々から親しまれ、安らぎを与える川として育んでいく

出典「鴨川流域懇談会 基本理念」

# 重点施策(公共空間整備)

## ◆重点施策

### ◇公共空間整備(快適な利用促進と自然環境に配慮した河川空間整備)

#### ◇整備の考え方

- ・安心・安全を確保しつつ、環境や住民に優しい日本一の都市河川にするため、特に整備が遅れている鴨川下流域(五条大橋より下流部)が多くの人から親しまれる公共空間となるよう、周辺地域との連携を図りつつ重点整備する。なお、整備区間は、桂川合流点から御池大橋までの約10.1kmとし、五条大橋から御池大橋までの右岸高水敷の再整備も併せて実施する。
- ・公共空間の利用を増進する取組をハード、ソフトの両面から促進する。
- ・また、整備する区間以外も含めて、鴨川の自然環境などのあるべき姿について、引き続き調査・検討していくものとする。

#### ◇整備の主な内容

- ・下流域の公共空間については、アウトドアアクティビティ(野外活動、スポーツ、遊び)の拠点となる施設(ジョギングロード、広場)、訪れる人々が安らぎや憩いを感じ、気軽に集うことができるアメニティ施設(散策路、並木、植栽、休憩所)を整備するとともに、イベント(・w伝大会など)の開催、史跡を巡る散策路など川とまち・地域間のネットワークを形成するソフト施策を地域などと連携して検討する。
- ・有識者や地域によって把握されている自然環境に係る課題などを取りまとめた「自然環境マップ」などの作成を検討する。

#### ◇整備を進める箇所

- アクティビティ施設
- アメニティ施設
- ・桂川合流点から御池大橋までの区間
- ・五条大橋から御池大橋までの区間
- ・西高瀬川背割り堤周辺
- ・陶化橋から東山橋までの区間

## 行動計画

重点施策	内容区分	区間	H21	H22	H23	H24	H25	備考
公共空間整備	ジョギングロードの整備	高水敷のある区間全川	全体ルート の構想	ネットワークの整備(未整備箇所や橋梁との接続など)		既存遊歩道の改築		膝など身体への負担の少ない路面整備、距離標設置
		京川橋上流(西高瀬川背割り堤)	地元調整	詳細設計				
	回廊整備	鳥羽大橋～陶化橋(右岸)	地元調整 詳細設計	工事				京都高速関連等
		陶化橋～東山橋(右岸)			詳細設計	工事		
		五条大橋～御池大橋(右岸)		詳細設計	工事			
	鴨川のあるべき姿の取りまとめ		準備	マップ制作委員会等の設置 情報集約	「自然環境マップ」「史跡マップ」の作成・公表など			河川工事や維持管理の基礎資料として、また、鴨川の魅力発信として作成していく

# 重点施策(治水対策)

## ◆重点施策

### ◇治水対策(安心のかもがわ整備事業)

◇短期計画としての治水対策の内容(今後概ね5年程度で実施を目指す内容)

- ・測量、調査、設計
- ・河川区域内行為の整理、関係者協議・調整
- ・橋梁補強工事
- ・河床掘削、低水路拡幅
- ・中州・寄州管理

区間	管理の実施方法	備考
桂川合流点～七条大橋	今後河床掘削を下流から順次実施 維持管理は行わない(環境対策区間は引き続き河床整正を実施)	
七条大橋～二条大橋	河積を確保するため、土砂堆積が認められ次第、随時河床整正を実施	
二条大橋～柘野堰堤	20年程度でほぼ全面が乾陸化する状況であることから、概ね10年程度のサイクルで河床整正を実施する 各橋梁間(14橋梁)を1年に2橋梁間程度ずつ、環境に影響の少ない3月or9月に河床整正を実施 整正の方法等詳細については、環境へも配慮しつつ府民会議等の意見も踏まえ、当面は試行錯誤を重ねながら決めていくものとする 高野川(鴨川合流点から三宅橋までの区間)についても、同様の中州管理を行うものとする。(10橋梁)	上流ほど水量が少なく、全面均一に整正を行うと水深が浅くなりすぎることや区間毎に条件も異なることなどから整正の範囲や形状等詳細については、色々なやり方を試し、効果や環境等への影響も確かめながら改善を図っていくことが望ましい。

## 行動計画

重点施策	内容区分	区間	H21	H22	H23	H24	H25	備考
治水対策	河川改修	桂川合流点～七条大橋						抜本的な河川改修
		七条大橋～二条大橋						土砂堆積があれば随時
	中州管理	二条大橋～柘野堰堤						当面は、10年サイクルに定期的に河床整正

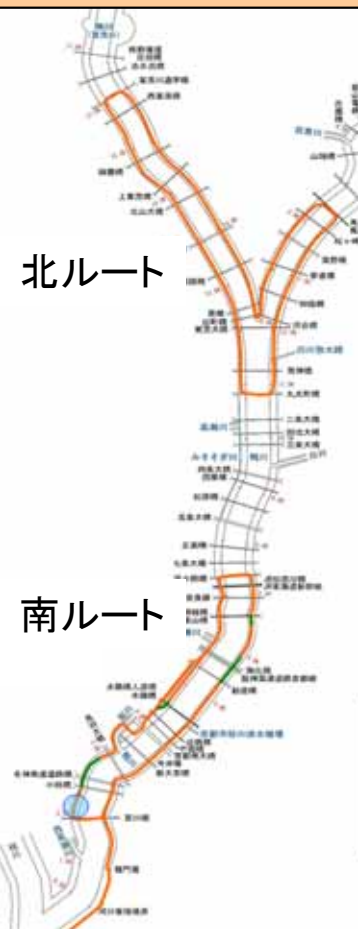
# ジョギングロード等の整備

## 【目的】

安心・安全を確保しつつ、環境や住民に優しい日本一の都市河川にするため、鴨川下流域(五条大橋より下流部)が多くのことから親しまれる公共空間となるよう、周辺地域との連携を図りつつ重点整備する。下流域の公共空間については、アウトドアアクティビティ(野外活動、スポーツ、遊び)の拠点を整備するとともにジョギングロードを整備する。整備にあたっては、膝など身体への負担が少ない路面構造の採用、目標を持ちながらジョギング、ウォーキング等ができるよう、距離標の設置など、快適な利用環境を創出し、利用者の増加・拡大を図る。

## 【整備状況と評価】

平成25年度末時点で北ルートは整備は完了し、南ルートは概成する。日常の散策やランニング、京都マラソンのコースの一部として活用されている。



凡例

- <ジョギングロード整備>
  - 整備済区間 (～H25年度)
  - 整備予定区間 (H26～)
- <環境学習等拠点整備>
  - 整備済区間

整備項目	計画	整備済	進捗率
ジョギングロード整備 (北ルート)	17.2 km	17.2 km	100%
ジョギングロード整備 (南ルート)	14.4 km	13.2 km	92%

平成25年度末

京都マラソンの様子 (出雲路橋上流)

# 自然環境学習や野外活動拠点の整備

公共空間整備

## 【目的】

府民のニーズを踏まえ、利用を促進するエリアについて検討し、自然環境学習や野外活動の拠点となるスペースを整備する。

- ・自然環境学習、野外活動スペース
- ・野鳥などの自然観察スペース

## 【整備状況と評価】

京川橋上流右岸に公園を整備し、平成25年4月に開園した。今後、自然環境学習や野鳥などの自然観察の拠点として広く活用されることが期待される。



小枝橋公園

平成25年 鴨川の生きもの観察&水質調査



自然環境学習の拠点として今後、鴨川探検等に活用していく



平成25年 春の鴨川ウォーク  
水辺の自然観察会

# 「自然環境マップ」などの作成

## 【目的】

鴨川が持つ自然的な空間を誰もが享受できるように、鴨川の自然や課題などを有識者や地域と一緒に情報を共有し取りまとめ、鴨川のあるべき姿を構築する。

## 【整備状況と評価】

魚類の遡上に支障となる横断工作物の位置、鴨川の植生、野鳥の生息箇所などをとりまとめ、工事実施等に活用できるデータベースとなるマップを作成した。

水生生物の種類を記載

- |         |        |       |
|---------|--------|-------|
| オイカワ    | モツゴ    | ドンコ   |
| メダカ     | ヤマロコ   | ムギツク  |
| コウソウ金ゴイ | オキ     | オトシゴイ |
| カワユシゴイ  | カワムツ   | ホメダカ  |
| アサギ     | オホホシバシ | トビヨウ  |
| コイ      | サウナギ   | フシロギ  |
| ゲンジブ    | ナマズ    |       |

橋梁を記載



河川空間の特徴を記載

植生を記載

- 一年生草花群落
- 多年生草花群落
- 雑草群落
- 雑草群落(高草)
- 雑草群落(低草)
- 雑草群落(水際)
- 雑草群落(水際)
- その他の植生
- 樹林(その他の)
- 田
- アライシ
- 自然草地

落差工の位置、落差を記載

野鳥の種類を記載

- |      |      |      |
|------|------|------|
| コササギ | カバ   | アオシ  |
| アサギ  | ハシロ  | カササギ |
| アヒル  | セウロ  | シメ   |
| カルガモ | シメ   | スズメ  |
| オカ   | ムクドリ | ムクドリ |
| イソジ  | ハシロ  | ハシロ  |
| カワサ  | カササギ | ハシロ  |

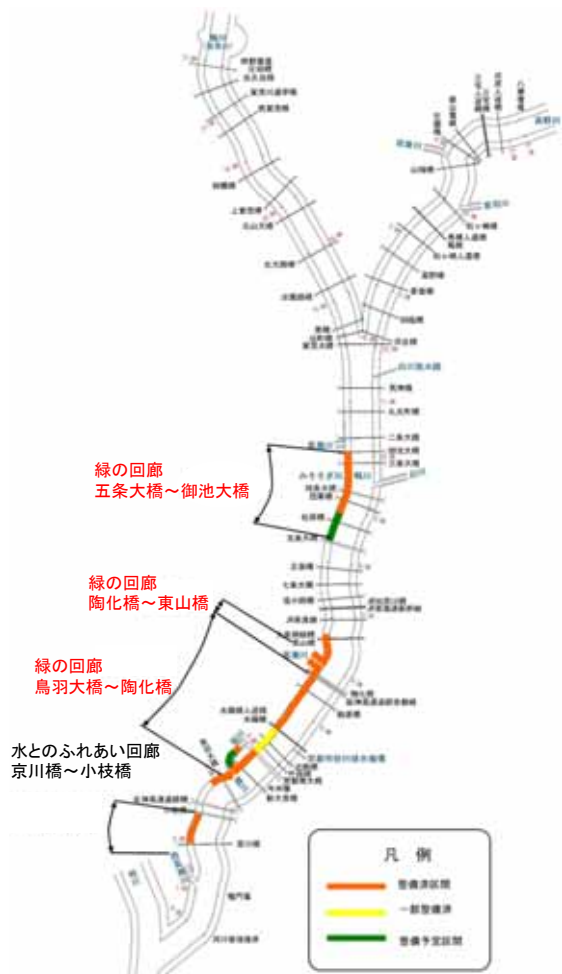
# 「緑の回廊」の整備

## 【目的】

緑を楽しみつつ鴨川の川面を眺めながら散策できる三条大橋から七条大橋の左岸に整備された「花の回廊」を模した、河川空間が都市に潤いを与えるよう緑ある空間整備を、鳥羽大橋から御池大橋までの区間で実施することにより、鴨川を代表する中流域の風景を下流域にも拡大する。

## 【整備状況と評価】

御池大橋から四条大橋の右岸高水敷再整備において、土系舗装、バリアフリー化及び芝生による緑化を行うことにより、さらに多くの人々が快適に集い、憩い、利用できる河川空間の創出を図った。



三条大橋上流





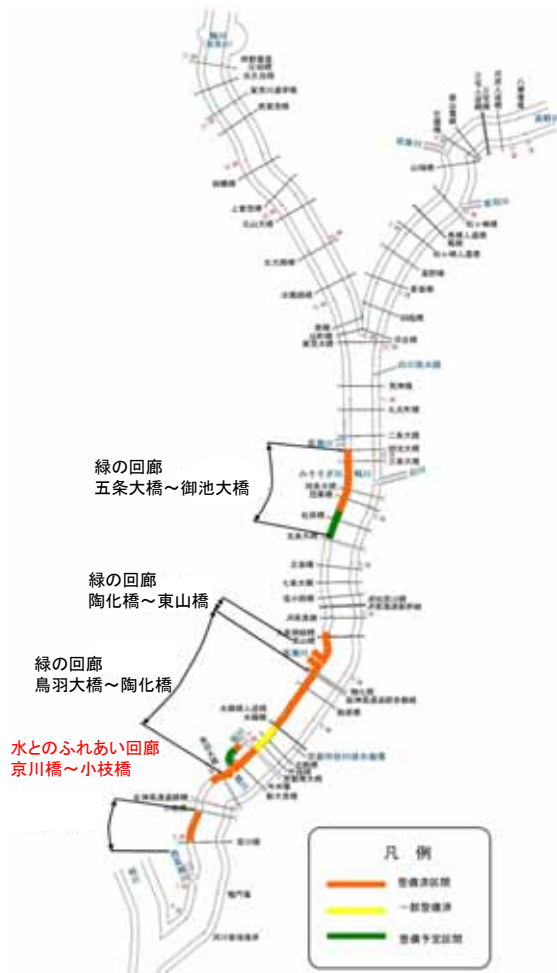
# 「水とのふれあい回廊」の整備

## 【目的】

桂川合流点から鳥羽大橋までの区間を人が自然とふれあえるエリアとするため、桂川合流付近の豊かな自然を残しつつ改修を進めるとともに、なだらかな勾配の高水敷による自然に近い親水性の確保、現状形態に近い護岸整備による自然な河床変化の保全を図る。

## 【整備状況と評価】

京川橋から小枝橋までの右岸において、護岸整備の実施により自然に近い親水性を確保した。



京川橋上流

# 「西高瀬川背割り堤」の整備

## 【目的】

西高瀬川背割り堤においては、京川橋上流では過去に養豚場や自動車解体工場が不法占用していた区域であり、また、下流では現在も河川区域内に耕作地が存在するなど、多くの問題を抱える区域である。課題の解決を図るとともに新たな不法占用などが発生しないように、植栽による修景整備を実施する。あわせて、高水敷に勾配を持たせ親水性の向上を図り、人と自然がふれあえる「水とのふれあい回廊」整備を実施する。

## 【整備状況と評価】

堤防敷を一部公園として整備し、高水敷をなだらかな勾配とすることで親水性を確保した。



小枝橋下流

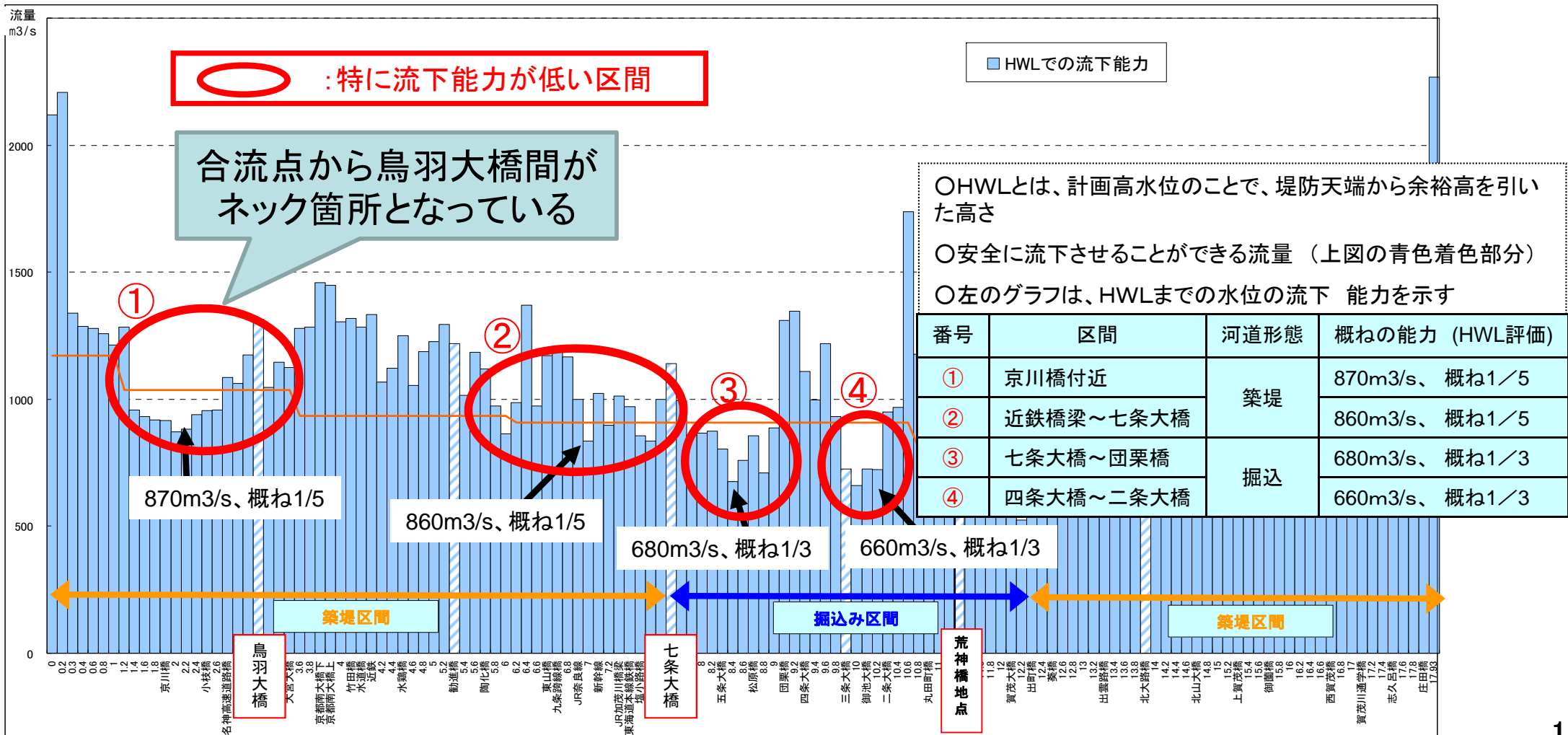


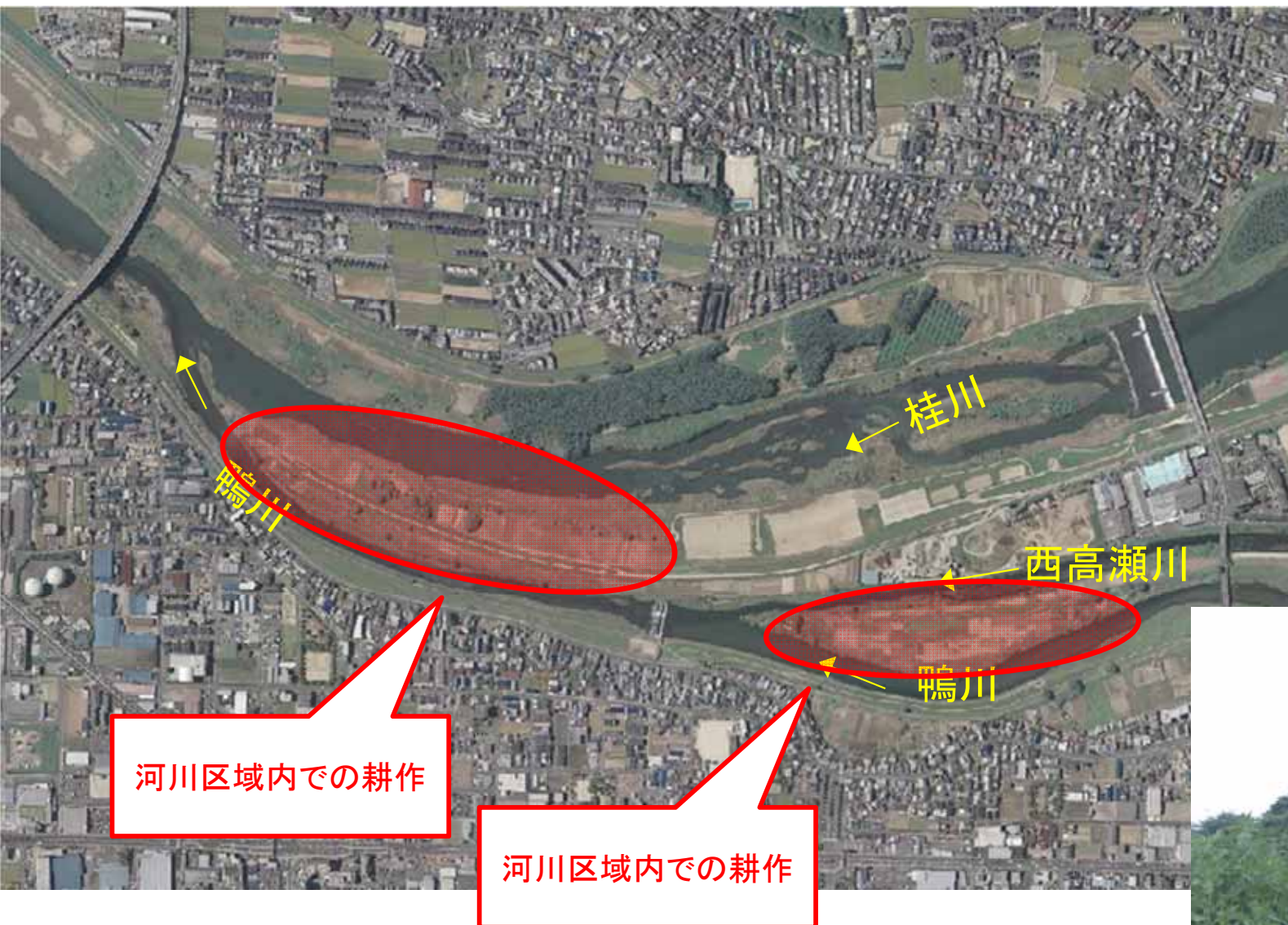
### 【目的】

計画規模を年超過確率1/30として、河床掘削、低水路拡幅を実施するとともに、中洲・寄州を継続的に管理していく。桂川合流点から七条大橋の治水対策については、河川区域内行為の整理、関係者協議・調整を行い、抜本的な河川改修を実施する。

### 【整備状況と評価】

七条大橋より下流の治水対策については、河川区域内行為の整理に時間を要し、引き続き解消に向けて関係者と協議・調整を行う必要がある。





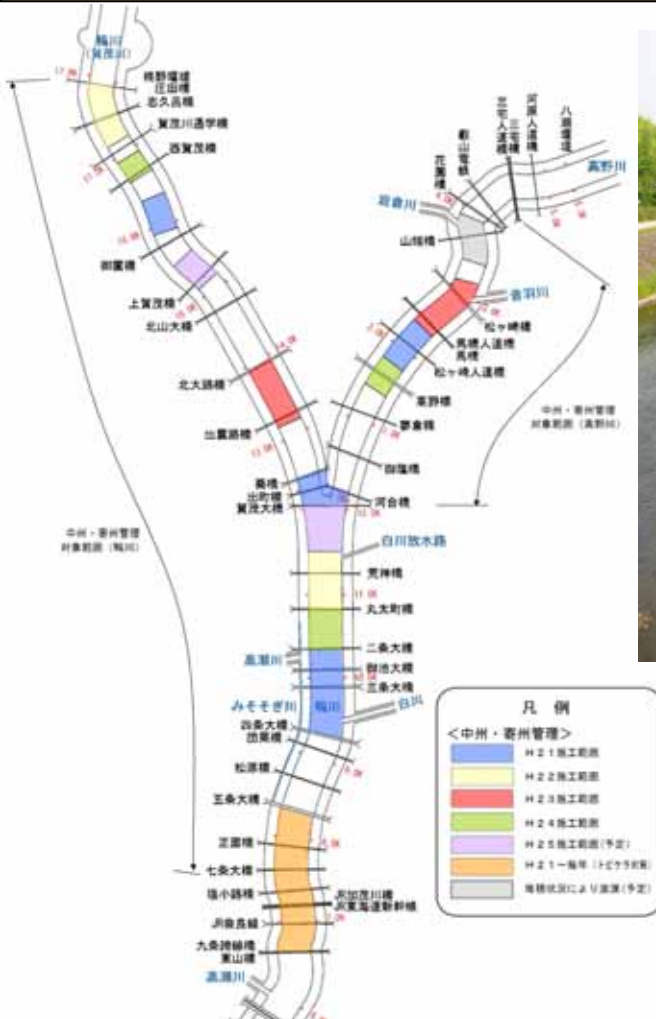
西高瀬川の耕作地

### 【目的】

七条大橋より上流区間は、目標規模の洪水に対して流下能力に余裕がないため、局部的な対策の実施や治水安全度の低下を招かないよう河床整正などの維持管理に努める。七条大橋から二条大橋については、河積を確保するため、土砂堆積が認められ次第、随時河床整正を実施する。二条大橋から柘野堰堤については、20年程度でほぼ乾陸化する状況であることから、概ね10年程度のサイクルで河床整正を実施する。

### 【整備状況と評価】

10年サイクル計画の5年が経過し、概ね5割の進捗が図れている。



丸太町橋下流(H24.4)



丸太町橋下流(H25.4)

整備項目	計画	整備済	進捗率
中州・寄州管理	12.2 km	6.6 km	54%

平成25年度末

# その他各種取り組み(鴨川ギャラリー)

## 【目的】

鴨川の魅力や文化・伝統の発信、夏場の休憩所確保等を目的に橋梁下のスペースを利用して整備する。

## 【整備状況と評価】

二条大橋、出町橋の2箇所を平成24年度に試行的に整備した。



二条大橋のギャラリー利用状況



# その他各種取り組み(鴨川探検！再発見！)

## 【目的】

鴨川の魅力を改めて発見し、川への理解を深め、河川愛護や自然環境保全への関心と主体的な取り組みの輪を広げてもらうことを目的として、平成16年から小学生を対象に年に4回程度、鴨川において水辺の自然観察会等を開催している。

## 【整備状況と評価】

これまでに子ども約600名が参加し、次世代教育として河川愛護精神の高揚等を図った。



平成24年 鴨川の生きもの観察&水質調査



平成25年 春の鴨川ウォーク 水辺の自然観察会